

資格試験のレベルと試験内容（新規試験、再認証試験）と参考文献

(一社) 日本非破壊検査協会
認証事業本部

JIS Z 2305による認証制度に基づき実施する、資格試験の各NDT方法のレベルとその試験内容を以下に示します。

2017年春期試験以降

試験種別	レベル1		レベル2		レベル3	
	一次試験	二次試験	一次試験	二次試験	一次試験	二次試験
新規試験	筆記試験	実技試験	筆記試験	実技試験	筆記試験	筆記試験
再認証試験※ ¹	実技試験		実技試験		筆記試験※ ²	

※1 再認証試験の受験申請受付は、試験実施の約4～5か月前〔資格有効期限の約12か月前〕となります。
(新規試験の受験申請受付は筆記試験実施の約2か月前となります。) <予定>

※2①レベル3については、筆記試験の代わりに書類審査(クレジットシステム)を受ける方法もあります。
②レベル3については、筆記試験(又はクレジットシステム)に加えて実技能力の確認が必要となります。
実技能力の確認書類(「(EB3)レベル3 実技能力の確認書類について(2017年7月12日HP掲載)」参照)は、
受験申請の際に提出が必要となります。

各試験の詳細は2頁以降を参照してください。

1. 新規試験（再試験含む）2015年秋期試験以降

(1) NDT方法レベル1

①一次試験（筆記試験：多項選択式〔四者択一〕）

NDT方法	試験時間：120分				
	一般試験		専門試験		
	試験内容	最小限の問題数	試験内容	最小限の問題数	
RT1	各NDT方法における原理、装置などに関する問題など	40	各供用前・供用期間中の試験（製造を含む。）の分野専門理論の適用における問題など	鋳造品、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
UT1		40		鋳造品、鍛造品、圧延製品、管、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
UM1		30		鋳造品、鍛造品、圧延製品、管、溶接工程を含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
MT1		30		鋳造品、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
MY1		30		鋳造品、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の極間法を用いた試験についての分野専門理論を含む。	30
ME1		30		鋳造品、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の通電法を用いた試験についての分野専門理論を含む。	30
PT1		30		鋳造品、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
PD1		30		鋳造品、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
ET1		40		管、条、板、鍛造品、溶接工程及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
ST1		30		鋳造品、鍛造品、溶接工程を含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30
TT1※1		40		材料、素材、構造物、設備の試験についての分野専門理論を含む。	30
LT1※1	30	平面素材、密閉容器、排気/加圧になる部分を持つ容器、配管など及び関連きずを含む工業製品の試験についての分野専門理論を含む。	30		

※1：2019年春期試験より実施

②二次試験(実技試験)

NDT方法	試験内容	試験体数	試験時間 (分) ※2
RT1	a) 使用するRT 機器材システム (X 線発生装置、恒温現像槽、X 線フィルム及び現像剤等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された2体の試験体の撮影及び写真処理 c) 指示された3枚の透過写真のきずの像の分類の記録 d) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	2体	115
UT1	a) 使用するUT機器材システム (試験機器の調整・管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	100
UM1	a) 使用するUM機器材 (測定機器の調整・管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の測定 c) NDT指示書に基づく測定結果の記録及び報告	3体	30
MT1	a) 使用するMT機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	60
MY1	a) 使用するMY機器材システムの確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
ME1	a) 使用するME機器材システムの確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
PT1	a) 使用するPT機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	90
PD1	a) 使用するPD機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
ET1	a) 使用するET機器材システム (探傷条件の設定を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	75
ST1	a) 使用するST機器材システム (静ひずみ測定器、動ひずみ測定器、記録器等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の測定 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	70
TT1 ※1	a) 使用するTT機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	60
LT1 ※1	a) 使用するLT 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	110

※1：2019年春期試験より実施

※2：試験時間：実技試験の正味（予定）時間です。試験会場では、試験に関する説明時間等が付加されます。

(2) NDT方法レベル2

①一次試験（筆記試験：多項選択式〔四者択一〕）

NDT方法	試験時間：120分			
	一般試験		専門試験	
	試験内容	最小限の問題数	試験内容	最小限の問題数
RT2	各NDT方法における原理、装置などに関する問題など	40	供用前・供用期間中試験（製造を含む。）における 及びNDT方法規格、仕様、分業専門理論と判定基準に関する問題など	30
UT2		40		30
MT2		30		30
MY2		30		30
PT2		30		30
PD2		30		30
ET2		40		30
ST2		30		30
TT2※1		40		30
LT2※1		30		30

※1：2019年春期試験より実施

②二次試験(実技試験)

NDT 方法	試験内容	試験体数	試験時間 (分)※2
RT 2	a) 使用するRT 機器材システム (X線発生装置、恒温現像槽、X線フィルム及び現像剤等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された2体の試験体の撮影及び写真処理 c) 指示された3枚の透過写真のきずの像の分類 d) 指定された24枚の透過写真の解釈 e) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 f) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	2体、 透過写真 24枚	165
UT 2	a) 使用するUT機器材システム(試験機器の調整・管理を含む)の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	3体	160
MT 2	a) 使用するMT機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	3体	110
MY 2	a) 使用するMY機器材システムの確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	1体	70
PT 2	a) 使用するPT機器材システム(探傷感度、探傷剤の管理を含む)の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	3体	120
PD 2	a) 使用するPD機器材システム(探傷感度、探傷剤の管理を含む)の確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	1体	60
ET 2	a) 使用するET機器材システム(探傷条件の設定を含む)の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1技術者へのNDT指示書の作成	3体	120
ST 2	a) 使用するST 機器材システム(静ひずみ測定器、動ひずみ測定器、記録器等の管理を含む)の確認及び準備 b) 指示された2体の試験体の測定 c) NDT 手順書(指示書)に基づく試験結果の報告 d) レベル1 技術者への NDT 指示書の作成	2体	110
TT 2※1	a) 使用するTT 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された2体の試験体の探傷 c) 指定された可視画像2枚および熱画像2枚の解釈 d) NDT 手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 e) レベル1 技術者への NDT 指示書の作成	2体、 可視画像2枚 熱画像2枚	125
LT 2※1	a) 使用するLT 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT 手順書(指示書)に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル1 技術者への NDT 指示書の作成	3体	140

※1: 2019年春期試験より実施

※2: 試験時間: 実技試験の正味(予定)時間です。試験会場では、試験に関する説明時間等が付加されます。

(3) NDT方法レベル3

①一次試験(筆記試験：多項選択式 [四者択一])

NDT方法	基礎試験		
	試験内容	最小限の問題数	試験時間(分)
各NDT 共通	パートA：材料科学、製品・製造・加工の基礎知識	25	150
	パートB：認証機関の認証システムの知識	10	
	パートC：4 NDT方法（申請しているNDT方法及び他の3 NDT方法） におけるレベル2の基礎知識。4 NDT方法に少なくともRT又はUTを含めなければならない。	60 (選択した4NDT×15)	

②二次試験(筆記試験：多項選択式 [四者択一] <パートD、パートE>、記述式<パートF>)

NDT方法	主要方法試験		
	試験内容	最小限の問題数	試験時間(分)
各NDT	パートD：関連したNDT方法のレベル3の基礎知識	30	120
	パートE：関連したNDT方法の適用、コード及び規格に関する知識	20	
	パートF：関連したNDT方法の手順書の作成	1	60

2. 再認証試験

2017年春期試験以降

(1) NDT方法レベル1 (実技試験)

NDT方法	試験内容	試験体数	試験時間 (分)※2
RT1	a) 使用するRT 機器材システム (X線発生装置、恒温現像槽、X線フィルム及び現像剤等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された2体の試験体の撮影及び写真処理 c) 指示された3枚の透過写真のきずの像の分類の記録 d) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	2体	115
UT1	a) 使用するUT機器材システム (試験機器の調整・管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	100
UM1	a) 使用するUM機器材 (測定機器の調整・管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の測定 c) NDT指示書に基づく測定結果の記録及び報告	3体	30
MT1	a) 使用するMT機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	60
MY1	a) 使用するMY機器材システムの確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
ME1	a) 使用するME機器材システムの確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
MC1	a) 使用するMC機器材システムの確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
PT1	a) 使用するPT機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	90
PD1	a) 使用するPD機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
PW1	a) 使用するPW機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	30
ET1	a) 使用するET機器材システム (探傷条件の設定を含む) の確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	75
ST1	a) 使用するST機器材システム (静ひずみ測定器、動ひずみ測定器、記録器等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された1体の試験体の測定 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	1体	60
TT1※1	a) 使用するTT機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	60
LT1※1	a) 使用するLT機器材システムの確認及び準備 b) 指示された3体の試験体の探傷 c) NDT指示書に基づく試験結果の記録及び報告	3体	110

※1: 2019年春期試験より実施

※2: 試験時間: 実技試験の正味 (予定) 時間です。試験会場では、試験に関する説明時間等が付加されます。

(2) NDT方法レベル2 (実技試験)

NDT方法	試験内容	試験体数	試験時間(分) ^{※2}
RT2	a) 使用する RT 機器材システム (X 線発生装置、恒温現像槽、X 線フィルム及び現像剤等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された 2 体の試験体の撮影及び写真処理 c) 指示された 3 枚の透過写真のきずの像の分類 d) 指定された 24 枚の透過写真の解釈 e) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 f) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	2 体、 透過写真 24 枚	165
UT2	a) 使用する UT 機器材システム (試験機器の調整・管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された 3 体の試験体の探傷 c) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	3 体	160
MT2	a) 使用する MT 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された 3 体の試験体の探傷 c) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	3 体	110
MY2	a) 使用する MY 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された 1 体の試験体の探傷 c) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	1 体	70
PT2	a) 使用する PT 機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された 3 体の試験体の探傷 c) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	3 体	120
PD2	a) 使用する PD 機器材システム (探傷感度、探傷剤の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された 1 体の試験体の探傷 c) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	1 体	60
ET2	a) 使用する ET 機器材システム (探傷条件の設定を含む) の確認及び準備 b) 指示された 3 体の試験体の探傷 c) NDT手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	3 体	120
ST2	a) 使用する ST 機器材システム (静ひずみ測定器、動ひずみ測定器、記録器等の管理を含む) の確認及び準備 b) 指示された 2 体の試験体の測定 c) NDT 手順書 (指示書) に基づく試験結果の報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	2 体	95
TT2 ^{※1}	a) 使用する TT 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された 2 体の試験体の探傷 c) 指定された可視画像 2 枚および熱画像 2 枚 d) NDT 手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 e) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	2 体、 可視画像 2 枚 熱画像 2 枚	125
LT2 ^{※1}	a) 使用する LT 機器材システムの確認及び準備 b) 指示された 3 体の試験体の探傷 c) NDT 手順書 (指示書) に基づく試験結果の記録、合否判定及び報告 d) レベル 1 技術者への NDT 指示書の作成	3 体	140

※1: 2019 年春期試験より実施

※2: 試験時間: 実技試験の正味 (予定) 時間です。試験会場では、試験に関する説明時間等が付加されます。

- (3) NDT方法レベル3 (筆記試験：多項選択式 [四者択一])
- (3) - 1 2020年春期再認証試験まで <試験時間：60分>
- 1) 認証システム (JIS Z 2305) に関する問題 10 問以上
 - 2) 当該 NDT 方法の適用に関する問題 30 問以上
- (3) - 2 2020年秋期再認証試験以降 <試験時間：120分>
- 1) 認証システム (JIS Z 2305) に関する問題 15 問以上
 - 2) 当該 NDT 方法の適用に関する問題 35 問以上

※レベル3については、筆記試験の代わりに書類審査 (クレジットシステム) を受ける方法もあります。

※レベル3については、筆記試験 (又はクレジットシステム) に加えて実技能力の確認が必要となります。
実技能力の確認書類は、受験申請の際に提出が必要となります。

3. 参考文献及び関連規格・基準

表中の記号の説明

書籍名表中の○印：参考書籍（一般社団法人日本非破壊検査協会発行書籍等〔2020年6月現在〕）

関連規格・基準表中の□印：関連規格・基準について、参考書籍に準じるもの。

関連規格・基準表中の△印：参考書籍で参照されている規格、読んでおくことが望ましい規格。

本資料は、2020年6月現在の内容です。規格類の改正及び認証制度の改正等が行われた場合、変更等もありますので予めご了解ください

(1) 全NDT方法共通

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
非破壊試験技術総論	2004			○
非破壊試験技術者のための金属材料概論*	2018		○	○
レベル3技術者のための 材料科学及び認証システムに関する問題集	2015			○

*「非破壊試験技術者のための金属材料概論」（2018）は「非破壊試験技術者のための金属材料入門」を包含した内容です。

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
JIS Z 2305:2013 非破壊試験技術者の資格及び認証 <ISO 9712:2012(MOD)>			□
JIS Z 2300:2009 非破壊試験用語	□	□	□

(2) RT

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
放射線透過試験Ⅰ	2019	○	○	○
放射線透過試験Ⅱ	2019		○	○
放射線透過試験Ⅲ	2016			○
放射線透過試験Ⅰ問題集	2017	○	○	○
放射線透過試験Ⅱ問題集	2017		○	○
放射線透過試験Ⅲ問題集	2017			○
放射線透過試験実験法	1987	○	○	○
放射線透過試験技術に関する写真及び解説	2006	○	○	○
鋳鋼品放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ	—	○	○	○
鋼溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ	—	○	○	○
アルミニウム溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ	—	○	○	○

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
JIS G 0581:1999 鋳鋼品の放射線透過試験方法	□	□	□
JIS Z 3104:1995 鋼溶接継手の放射線透過試験方法	□	□	□
JIS Z 3105:2003 アルミニウム溶接継手の放射線透過試験方法	□	□	□
JIS Z 3106:2001 ステンレス鋼溶接継手の放射線透過試験方法		□	□
JIS Z 3107:1993 チタン溶接部の放射線透過試験方法	△	△	△
JIS Z 3861:1979 溶接部の放射線透過試験の技術検定における試験方法及び判定基準	△	△	△

(3) UT及びUM

書籍名	年版	レベル1	UM レベル1	レベル2	レベル3
超音波探傷試験Ⅰ	2017	○		○	○
超音波探傷試験Ⅱ	2019			○	○
超音波探傷試験Ⅲ	2017				○
超音波厚さ測定Ⅰ	2009	○	○	○	○
超音波探傷試験Ⅰ問題集	2017	○		○	○
超音波探傷試験Ⅱ問題集	2019			○	○
超音波探傷試験Ⅲ問題集	2019				○
超音波厚さ測定Ⅰ問題集	2017	○	○	○	○
超音波探傷試験実技参考書「デジタル超音波探傷器」編	2009	○		○	○
各種成品及び溶接構造物の超音波探傷試験	2004			○	○
鉄骨溶接部の超音波探傷試験実施マニュアル	1999			○	○
超音波探傷入門（パソコンによる実技演習）DL版「デジタル超音波探傷器」編	2013	○		○	

関連規格・基準	レベル1	UM レベル1	レベル2	レベル3
JIS G 0582:2012 鋼管の自動超音波探傷検査方法				△
JIS G 0584:2014 アーク溶接鋼管の超音波探傷検査方法				△
JIS G 0587:2007 炭素鋼鍛鋼品及び低合金鋼鍛鋼品の超音波探傷試験方法	□		□	□
JIS G 0801:2008 圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法	□		□	□
JIS G 0802:2016 ステンレス鋼板の超音波探傷検査方法				△
JIS G 0901:2010 建築用鋼板及び平鋼の超音波探傷試験による等級分類及び判定基準			△	△
JIS Z 2344:1993 金属材料のパルス反射法による超音波探傷試験方法通則	□		□	□
JIS Z 2345-1:2018 超音波探傷試験用標準試験片—第1部:A1形標準試験片	□		□	□
JIS Z 2345-2:2018 超音波探傷試験用標準試験片—第2部:A7963形標準試験片	□		□	□
JIS Z 2345-3:2018 超音波探傷試験用標準試験片—第3部:垂直探傷試験用標準試験片	□		□	□
JIS Z 2345-4:2018 超音波探傷試験用標準試験片—第4部:斜角探傷試験用標準試験片	□		□	□
JIS Z 2350:2002 超音波探触子の性能測定方法			□	□
JIS Z 2351:2011 超音波探傷器の電気的性能測定方法			△	△
JIS Z 2352:2010 超音波探傷装置の性能測定方法			△	△
JIS Z 2355-1:2016 非破壊試験—超音波厚さ測定—第1部:測定方法	□	□	□	□
JIS Z 2355-2:2016 非破壊試験—超音波厚さ測定—第2部:厚さ計の性能測定方法	□	□	□	□
JIS Z 3050:1995 パイプライン溶接部の非破壊試験方法				□
JIS Z 3060:2015 鋼溶接部の超音波探傷試験方法	□		□	□
JIS Z 3062:2014 鉄筋コンクリート用異形棒鋼ガス圧接部の超音波探傷試験方法及び判定基準			△	□
JIS Z 3070:1998 鋼溶接部の超音波自動探傷方法				△
JIS Z 3080:1995 アルミニウムの突合せ溶接部の超音波斜角探傷試験方法			□	□
日本建築学会 鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説:2018			□	□

(4) MT及びMY, ME, MC

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
磁気探傷試験Ⅰ	2018	○	○	○
磁気探傷試験Ⅱ	2018		○	○
磁気探傷試験Ⅲ	2018			○
磁気探傷試験Ⅰ問題集	2018	○	○	○
磁気探傷試験Ⅱ問題集	2018		○	○
磁気探傷試験Ⅲ問題集	2018			○
磁気探傷試験実技参考書	2018	○	○	○
鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験によるきず指示模様の参考写真集	2018	○	○	○

注) レベル1は、MY/MC/ME/MT 共通です。 レベル2は、MY/MT 共通

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
JIS Z 2320-1:2017 非破壊試験—磁粉探傷試験—第1部:一般通則 〈ISO 9934-1:2001(MOD)〉	△	□	□
JIS Z 2320-2:2017 非破壊試験—磁粉探傷試験—第2部:検出媒体 〈ISO 9934-2:2002(MOD)〉		△	□
JIS Z 2320-3:2017 非破壊試験—磁粉探傷試験—第3部:装置 〈ISO 9934-3:2002(MOD)〉		△	□
JIS Z 2323:2017 非破壊試験—浸透探傷試験及び磁粉探傷試験—観察条件 〈ISO 3059:2001(IDT)〉		□	□

(5) PT及びPD, PW

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
浸透探傷試験Ⅰ	2018	○	○	○
浸透探傷試験Ⅱ	2018		○	○
浸透探傷試験Ⅲ	2019			○
浸透探傷試験Ⅰ問題集	2019	○	○	○
浸透探傷試験Ⅱ問題集	2019		○	○
浸透探傷試験問題集	2010	□	□	○
浸透探傷試験実技参考書	2015	○	○	○
鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験によるきず指示模様の参考写真集	2018	○	○	○

注) レベル1は、PD/PW/PT 共通です。 レベル2は、PD/PT 共通

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
JIS Z 2323:2017 非破壊試験—浸透探傷試験及び磁粉探傷試験—観察条件 〈ISO 3059:2001(IDT)〉	△	□	□
JIS Z 2343-1:2017 非破壊試験—浸透探傷試験—第1部:一般通則:浸透探傷試験方法 及び浸透指示模様の分類〈ISO 3452-1:2013(MOD)〉	△	□	□
JIS Z 2343-2:2017 非破壊試験—浸透探傷試験—第2部:浸透探傷剤の試験 〈ISO 3452-2:2013(IDT)〉	△	□	□
JIS Z 2343-3:2017 非破壊試験—浸透探傷試験—第3部:対比試験片 〈ISO 3452-3:2013(MOD)〉	△	□	□
JIS Z 2343-4:2001 非破壊試験—浸透探傷試験—第4部:装置 〈ISO 3452-4:1998(IDT)〉	△	□	□
JIS Z 2343-5:2012 非破壊試験—浸透探傷試験—第5部:50°Cを超える温度での浸透探傷試験 〈ISO 3452-5:2008(IDT)〉	△	□	□
JIS Z 2343-6:2012 非破壊試験—浸透探傷試験—第6部:10°Cより低い温度での浸透探傷試験 〈ISO 3452-6:2008(IDT)〉	△	□	□

(6) ET

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
渦電流探傷試験Ⅰ	2008	○	○	○
渦電流探傷試験Ⅱ	2016		○	○
渦流探傷試験Ⅲ	2003			○
渦流探傷試験問題集	2002	○	○	○
渦電流探傷試験実技参考書	2018	○	○	○

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
JIS G 0583:2012 鋼管の自動渦電流探傷検査方法		□	□
JIS H 0502:1986 銅及び銅合金管のか(渦)流探傷試験方法		□	□
JIS H 0515:1992 チタン管の渦流探傷検査方法		△	△
JIS Z 2315:1991 渦流探傷装置の総合性能の測定方法		□	□
JIS Z 2316-1:2014 非破壊試験—渦電流試験—第1部：一般通則	□	□	□
JIS Z 2316-2:2014 非破壊試験—渦電流試験—第2部：渦電流試験器の特性及び検証		△	△
JIS Z 2316-3:2014 非破壊試験—渦電流試験—第3部：プローブの特性及び検証		△	△
JIS Z 2316-4:2014 非破壊試験—渦電流試験—第4部：システムの特性及び検証		△	△

(7) ST

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
ひずみゲージ試験Ⅰ	2017	○	○	○
ひずみゲージ試験Ⅱ	2017		○	○
ひずみゲージ試験Ⅲ	2017			○
ひずみゲージ試験Ⅰ問題集	2019	○	○	○
ひずみゲージ試験Ⅱ問題集	2019		○	○
ひずみゲージ試験Ⅲ問題集	2019			○

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
NDIS 4001:2008 応力・ひずみ測定標準用語	△	△	△
NDIS 4102:2014 ひずみ測定器用コネクタ	△	△	△
NDIS 4104:2016 動ひずみ測定器の性能試験方法	△	△	△
NDIS 4105:2019 静ひずみ測定器の試験方法	△	△	△
NDIS 4106:2002 ひずみゲージ式圧力変換器の性能試験方法	△	△	△
NDIS 4107:1996 ひずみゲージ式圧力変換器の固有振動数の測定法	△	△	△
NDIS 4108:2012 電気抵抗ひずみゲージの性能特性表示	△	△	△
NDIS 4109:2014 ひずみ測定器用小形コネクタ	△	△	△
NDIS 4301:2000 等価ひずみ発生器	△	△	△
NDIS 4402:2012 ひずみゲージ試験通則	△	△	△

(7) T T

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
赤外線サーモグラフィ試験 I	2011	○	○	
赤外線サーモグラフィ試験 II	2012		○	
赤外線サーモグラフィ試験 I 問題集	2012	○	○	
赤外線サーモグラフィ試験 II 問題集	2013		○	
赤外線サーモグラフィによる設備診断・非破壊評価ハンドブック	2004	○	○	

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
NDIS 3005:2009 赤外線サーモグラフィによる非破壊試験の標準用語	□	□	
NDIS 3425:2008 熱弾性応力測定法		□	
NDIS 3427:2009 赤外線サーモグラフィ試験方法通則	□	□	
NDIS 3428:2009 赤外線サーモグラフィ法による建築・土木構造物表面層部の変状評価のための試験方法	□	□	

(8) L T

書籍名	年版	レベル1	レベル2	レベル3
漏れ試験 I	2012	○	○	○
漏れ試験 II	2012		○	○
漏れ試験 III	2016			○
漏れ試験 I 問題集	2012	○	○	○
漏れ試験 II 問題集	2013		○	○
漏れ試験 III 問題集	2017			○
漏れ試験実技参考書	2012	○	○	○

関連規格・基準	レベル1	レベル2	レベル3
JIS Z 2329:2002 非破壊試験－発泡漏れ試験方法	□	□	□
JIS Z 2330:2012 非破壊試験－漏れ試験方法の種類及びその選択	□	□	□
JIS Z 2331:2006 ヘリウム漏れ試験方法	□	□	□
JIS Z 2332:2012 圧力変化による漏れ試験方法	□	□	□
JIS Z 2333:2005 アンモニア漏れ試験方法	□	□	□
JIS Z 8754:1999 真空技術－質量分析計形リークディテクター校正方法	△	△	△